

# 年頭挨拶

平成二十四年の新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。昨年は、東日本大震災や原発事故を経験し、改めて日本の過去、現在、未来について、真剣に考える機会を得たと思います。

未だに厳しい避難生活を強いられている方や事業再開の目処が経っていない経営等、多くの方が不安定な生活にさらされておられます。心よりお見舞いを申し上げますとともに、政治家として一日も早い復興と生活安定に向けた対応をすべく心をあらたにしております。

今年は、いよいよ社会保障の改革と、消費税の引き上げを中心とする税制改革が最大のテーマとなります。自民党の税制調査会長及び社会保障制度に関する特命委員長として、渾身の力を込めて対応して参りたいと存じます。

野田佳彦内閣が発足して、これまでの鳩山・菅内閣と表面上は政策も手法も変わったイメージとなりました。首相は、さかんに野党に協議を呼びかけておりますが、政府・与党内の考えは二極対立したままです。世論を二分するような大課題克服に臨むためには、先ず政府・与党内の意見を統一した上で、野党への協力を求めて逆転国会を乗り越えるのが道理でしょう。所詮、民主党は、基本的に政策の一致ができない集団であり、TPP問題、普天間基地移設問題、税と社会保障の一体改革にしても、展望は極めて厳しいと思われまます。このまま民主党政権が続けば、日本国がズブズブと沈没してしまうのではないかと憂慮されます。

今年の4月28日は、「主権回復」満60年を迎えます。60年前のこの日は、サンフランシスコ講和条約発効日、GHQの占領統治が終了した日であり、日本国が国家主権を回復した歴史的な記念すべき日です。歴史背景を再確認し、日本人自ら総括し、「自立」と「自律」を大切にしつつ、「守るべきは守り、変えるべきは変える」の信念を持ち、そこから日本が立ち上がり、自らのアイデンティティを取り戻していく、私自身が先頭に立ち、古来より世界中から尊敬された、「勤勉で礼儀正しく、強さだけでなく人を思いやる気質」を再び取り戻すべく、皆様とともに頑張っている所存であります。

また、今年は沖縄返還40周年、日中国交正常化40周年を迎えますが、私にとっても議員生活40年を重ねることになります。

できるだけ早い機会に国民の皆様の審判を仰いで、政権与党の舵取りの一翼を担うことができますよう頑張っています。皆様のより一層のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、皆様のご多幸とご健勝を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

衆議院議員 **野田 毅**